

答えて市長!

一般質問

一般質問は12月14日・15日・16日に行われ、11人の議員が活発な論戦を展開しました。紙面の都合により、質問・答弁ともに質問者が要約しています。詳細な内容は会議録をご覧ください。会議録は市立図書館等でも閲覧することができます。

なお、本会議の会議録はホームページからご覧いただくこともできます。ただし、最新の会議録の提供までには3カ月程度かかります。

市長4期目の挑戦にあたり
「まちづくり」の考え方は

稲垣 茂行

(問) 今後、どのような「まちづくり」を目指すのか。また、3期12年を振り返って。

(答)市長 市長就任以来、「市民が主役」の都市構想を掲げ市民と行政が互いの責任と役割を理解、尊重しながら「協働」のまちづくりを実施してきた。

これらの実現を図るため、市民参画条例の制定、ISO9001の認証取得をはじめ協働のシステムづくりを進めた。また、防犯活動ステーション設置や小中学校の耐震化・大規模改修、そして行財政改革を進め、着実に成果を上げてきた。治水対策としては、中央土地区画内の第一調整池を整備、新しいまちづくりに向けた吉川美南駅も、結果が見えるところまで来た。

一方、産業基盤整備を目指した東埼玉テクノポリス拡張や、体育館の改修・耐震化、駅南整備が今後の課題となった。

人口減少社会の中、次世代

を育み、吉川が活気に溢れた安全で快適な町であり続けるよう、まちづくりを進めて行きたい。

第5次総合振興計画策定にあたっては、第4次総振の検証を行うとともに、社会潮流や行政課題をふまえて進めたい。

市民が実感できる、「住み良さ」「暮らしやすさ」がポイントと考え、引き続き行財政改革に取り組み、最良のサービス提供を図っていかねればならないと考えている。

ヒブワクチン・肺炎球菌ワクチン接種に市助成制度を

小林 昭子

(問) 市は来年度から子宮頸がんワクチン接種の助成制度を実施するとしているが、今国会で、ワクチン接種の公費助成をヒブ、肺炎球菌ワクチンへと拡大し補正予算が組まれた。今市議会には、ワクチン接種を求める請願が出され、全員一致で採択された。市においても、子宮頸がんワクチンに加え、ヒブ、肺炎球菌ワクチンの市助成制度を。

(答)市長 平成23年度当初予算措置を予定している。実施に向け医師会との調整など準備を進めている。

◆埼玉型ほ場整備事業

(問) 今年度吉川市が指定されたが、事業内容と市の見解を。

(答)市長 事業負担は、国50%、県27・5%、地元22・5%、市10%、地権者12・5%で、地域の諸条件を検討し決定)生産調整の条件は無い。対象となる20ヘクタール以上の地区を2年間で診断しその後十分な検討を行う。高齢化や後継者不足が懸念される中、生産性の向上や優良農地の確保が考えられる。

◆障がい児の移動支援確保を

(問) 障がい児の通学、通院時の支援は切実です。近隣市では、特別支援学校からリハビリ通院の移動支援がされている。吉川市でも行ってほしい。

(答)健康福祉部長 通学は介護者の病気・冠婚葬祭などの時には利用できる。近隣自治体の事例は研究していく。